

生活科における「いのち」の学習を支援する絵本データベースに関する研究

学校教育専攻
総合学習開発コース
山崎 智子

指導教官 村川 雅弘

1. 問題の所在

(1) 近年における子どもたちの“荒れ”

近年、問題となっている子どもたちの“荒れ”は、暴力や学級崩壊、子ども間での「弱い者」いじめ、薬物問題や暴走行為など、かなり広範囲に蔓延している。これらは、人間関係を育んでいくために重要な「規範意識」の低下と「他者感覚」の喪失がその理由であると考えられる。

(2) 「いのち」を考える必要性

人が生きる上で、自分は「生きているだけでなく、生かされている存在だ」という気持ちを持つことが「いのち」を考える一歩であり、そのように考えられるようになることが必要である。

(3) 読書と心の教育

「心の教育」が注目され、読書の面からも進めようという動きが生まれている。子どもたちへ「よい本」との出会いを提供するためには、教師自身が本に親しんでおかななくてはならないが、すべての教師が同じような読書経験や本に対する興味・関心があるわけではない。このようなことも踏まえ、子どもたちへ「よい本」を提供する何らかの手だてとなるものが必要となるのは言うまでもない。

(4) 現代の子どもの読書量

近年、子どもたちの読書離れが加速している。様々な調査からも、最近の子どもは、映像や音への興味はあるが、想像力が必要となる読書を嫌がるという傾向が明らかになった。しかし、「よい本」との出会いによる子どもたちへ好影響

は多くが示唆するところであり、いかに、子どもに本に親しんでもらうかが問題となる。

(5) 実感の伴う活動

生活科では、体験活動が多いが、それを一時的な活動にならないように指導・支援が必要となる。教師は、学校での生活を通して、「いのち」の大切さを感じ、考えるきっかけを作り、子どもに定着させていかななくてはならない。

(6) 「いのちの学習」への絵本の利用

絵本は、様々な場面や時間で活用することができる。そこで、読書が「心の教育」により影響があることから、絵本を補助資料として活用できないかということが考えられる。

2 研究の目的と方法

(1) 研究の方法

生活科において子どもたちが「いのち」を考える学習を行う際の補助資料としての絵本の収集・分析を行い、それをもとにリスト化し、使いやすいデータベースの作成を行う。

(2) 研究の方法

- ① 子どもが「いのち」を考えるにあたり、参考になる絵本を調査・収集する。
- ② 先行研究から絵本の子どもへの影響を明らかにし、絵本データベースについての考え方を構築する。
- ③ 読みきかせの実践を通して、絵本データベースの必要性を探る。
- ④ 調査・収集した絵本の内容を項目別に整理・分類し、それをもとにデータベースを

作成する。

- ⑤インタビュー調査やアンケート調査を通してデータベースの評価をし、改善を行う。

3 絵本データベースの必要性

生活科の学習内容を大きく分けると①自己認識、②自然認識、③社会認識の3つに分けられる。生活科は、児童の生活圏に学習の場や素材を求めるため、地域の特性を踏まえ、その環境の中で生活している児童の実態に即して展開される必要がある。「いのち」を考えるにあたって、生活科の中で行われる内容の中で参考になったものとして、以下の視点を挙げた。①モノや場を対象に関わる内容、②飼育・栽培内容、③人間関係を育む内容、④成長内容である。

絵本の分類は日本十進分類法（1929）で「児童文学」という分類と「絵本」という形そのものを表す分類になっている。ところが、この分類では、教師が授業を行う際、必要としている絵本を探し出すことは難しい。普段から絵本に親しんでいる教師であれば、柔軟な対応が可能であるが、新米の教師や絵本に親しみのない教師には、大変な苦勞を伴う。そこで、絵本を選択するためにもあるテーマをもとに絵本のリストを作成する必要性があるといえる。

4 絵本データベースの作成

絵本データベースの作成にあたり、まず、「いのち」についての考え方を明らかにした。それは、①いのちのかけがえなさ大切さ素晴らしさを実感する、②共有する、③自己肯定感を得る、④他者感覚を備える、の4点であると考えた。これらをもとに本データベースを作成することにした。作成には、Power Point と Front Page Express を使用し、IT に不慣れな者でも手軽に利用・作成ができることを目的にした。作成したデータベースを低学年の担当をしている教師

に見てもらい、インタビュー調査を行った。その中で、作成の目的とした「誰でも手軽に利用できる」点では、評価をもらえたが、使用することを目的と考えた場合、利用者を意識した作成ができていないという指摘を受けた。また、「いのち」という言葉から連想されるのは、生活科だけでなく道徳などの他教科との関連も含め、使用する学校の教育課程との関連を求められた。

5 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

今回作成したデータベースでは、他データベースとの違いとして「キーワード」による検索がある。また、他データベースのうち、その多くが書誌情報のみの検索だけであるのに対して、内容面からの検索として、登場キャラクターによって大まかな分類をした。これによって、授業で使用する際、関連するキャラクターからの検索ができる。さらに、クリックするだけで自分の思う絵本を選ぶようにしたため、コンピュータに不慣れな人でも気軽に利用することができる。しかし、データベースとしての機能を伴っていない問題もあり、今後の課題となる。

(2) 今後の課題

- ① 「いのち」の学習だけでなく「いのち」に対しての考え方を明確にする。
- ② データベースの有効性を調べるための調査不足を補う。
- ③ 生活科と「いのち」の学習をつなぐさらにきめの細かいキーワードを設定する。
- ④ 他の教科と関連させたデータベースの作成を行う。
- ⑤ 子どもの反応を書き込めるようなスペースを設置する。
- ⑥ 幼稚園や保育所での使用も考えたデータベースを作成する